

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果と学位論文等審査基準の対応マップ

		卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果		
		1	2	3
学位論文審査基準	1	◎	◎	
	2	◎		○
	3	◎	○	○
	4	○	◎	
	5	○	◎	◎
	6			

人文科学研究科日本語日本文学専攻博士前期課程の学位論文を評価するためのルーブリック

	尺度5 (S) (特に優秀な成績)	尺度4 (A) (優秀な成績)	尺度3 (B) (要求を満たす成績)	尺度2 (C) (合格と認められる最低の成績)	尺度1 (D) (不合格)
研究課題の明確性及び先行研究を踏まえて的的確性	先行研究を的確に検討することを通して、研究課題が極めて明確なものとなり、論理的に追求できるものとなっている。	先行研究を的確に検討することを通して、研究課題が明確なものとなり、論理的に追求できるものとなっている。	先行研究を検討することを通して、研究課題が明確なものとなり、論理的に追求できるものとなっている。	先行研究を検討することを通して、研究課題が設定され、論理的に追求できるものとなっている。	先行研究の検討が不十分で、明確な研究課題が設定されておらず、論理的に追求できていない。
課題を追求する上で方法論の適切性	日本語日本文学専攻に関する具体的かつ確かな研究作業が丹念に行なわれ、研究課題と研究対象を限定的に位置づけ、それを実証的に解明及び解決する方法が検討されている。	日本語日本文学専攻に関する具体的かつ確かな研究作業を通して、研究課題と研究対象を限定的に位置づけ、それを実証的に解明及び解決する方法が検討されている。	日本語日本文学専攻に関する研究作業を通して、研究課題と研究対象を総合的に位置づけ、それを実証的に解明及び解決する方法が多角的に検討されている。	日本語日本文学専攻に関する研究作業を通して、研究課題と研究対象を限定的に位置づけ、それを実証的に解明及び解決する方法について一定の検討がなされている。	日本語日本文学専攻に関する研究作業を通して、研究課題と研究対象を限定的に位置づけ、それを実証的に解明及び解決する方法が検討されていない。
研究方法及び調査方法の妥当性	研究課題に相応しい研究方法及び調査方法を適切に選定し、組み合わせることで新たな視点も生み出されている。 また、その際に典拠文献の記載や引用を極めて適切に行っている。	研究課題に相応しい研究方法及び調査方法を適切に選定し、組み合わせることで新たな視点も生み出されている。 また、その際に典拠文献の記載や引用を適切に行っている。	研究課題に相応しい研究方法及び調査方法を適切に選定し、組み合わせる。 また、その際に典拠文献の記載や引用を適切に行っている。	研究課題に相応しい研究方法及び調査方法を適切に選定し、組み合わせるが、典拠文献の記載や引用について課題がある。	研究課題に相応しい研究方法及び調査方法が適切に選定されておらず、典拠文献の記載や引用も適切ではない。
結論の妥当性	研究課題、先行研究、研究対象、研究方法及び調査方法から結論が適切に導かれ、極めて一貫したものとなっているとともに、明確な展望も示されている。	研究課題、先行研究、研究対象、研究方法及び調査方法から結論が適切に導かれ、極めて一貫したものとなっている。	研究課題、先行研究、研究対象、研究方法及び調査方法から結論が適切に導かれ、一貫したものとなっている。	研究課題、先行研究、研究対象、研究方法及び調査方法から結論が導かれているが、その一貫性において課題がある。	研究課題、先行研究、研究対象、研究方法及び調査方法から結論が適切に導かれていない。
研究の独創性と研究分野への貢献	日本語日本文学専攻の知識・技術及び考え方に関し、新領域の発見または新しい視点・方法による調査・実証・論証を含み、学会等においても極めて高い評価を得られる研究報告ができる水準である。	日本語日本文学専攻の知識・技術及び考え方に関し、新領域の発見または新しい視点・方法による調査・実証・論証を含み、学会等においても高い評価を得られる研究報告ができる水準である。	日本語日本文学専攻の知識・技術及び考え方に関し、新領域の発見または新しい視点・方法による調査・実証・論証を含み、学会等において研究報告できる水準である。	日本語日本文学専攻の知識・技術及び考え方に関し、新領域の発見または新しい視点・方法による調査・実証・論証が含まれている。	日本語日本文学専攻の知識・技術及び考え方に関し、新領域の発見または新しい視点・方法による調査・実証・論証が含まれていない。
その他					